

ボリビアでの体験を通して



幡羅 羅 中学校3年  
横島 圭

小学校を卒業後、2年近く私は父の仕事でボリビアに住み、その学校へ通っていた。学校ではスペイン語しか使わないので、スペイン語がほとんど話せない私は友達ができるかどうか、楽しい学校生活を送れるかどうかとても心配だった。

しかし、いざ学校へ行ってみると、言葉がうまく通じない私のためにゆっくりと分かるように話してくれてとても優しく接してくれた。特に印象に残っているのは、転入初日からとてもたくさん話しかけてくれたことだった。一人で不安だった私にジェスチャーも加えながら簡単な単語で話してくれたので、彼らが何を伝えたいのかは、半分ほど理解できた。また、小さな学校だったので他の学年の生徒のことを紹介してくれるなど、彼らはとても優しく親切だった。また、私も日本のことを教えたり、一緒にふざけ合ったりして、学校生活の不安はなくなっていた。

しかし、中には私が外国人だからと悪口やいやがらせなどをしてくる生徒が何人かいた。中でも、毎日のように「チーノ」「チーノ」と東洋人をばかにする言葉を言われるようになってきた。そしてある時、どうしようも我慢ができなくなり、ケンカになったことがあった。私が悪口を言い返すと相手も怒り、なぐり合いになっていった。そうするうちに先生がやってきて校長室

に連れていかれた。私は絶対に怒られると思っていたが、そんなことはなく、私は悪口を言っていた生徒に向かって話をしはじめた。先生は「あなたたちも他の国に行きた時に外国人だからという理由だけでかたにされたり、悪口を言われるのはいやですよね。」と言っていた。そのあと、長々と人としての生き方の話をしていたようだ。私と私の語学力ではよく理解できなかった。それでも相手のことを思いやり、自分がされていやなことは相手にもしなないということとは、世界共通のことだと思った。

それからは彼も悪口を言うことはなくなり、普通の友達として接することができた。私は海外で生活し、外国人だからという理由だけでいやがらせを受けるつらさを体験した。それと同時に一人で不安な時などに優しくしてくれる友達のすばらしさが分かった。特別に親切でなくても私を仲間として尊重してくれることがどれだけ大切なことかということに気がついた。

それから2年後、日本に戻ってきて幡羅中学校に転入することになった。小学校のころの友達も何人かいたが、昔と同じ様に接してくれるか、いじめなどがなかったか不安なことも多かった。しかし皆、昔と同じ様に接してくれ、また新しい友達に紹介してくれるなどとても親切に接してくれた。転校生や外国から来た人は新しい集団に入ることに大きな不安を感じている。その様な人に彼らを受け入れる心づかいや少しの親切が必要であるということを知ってほしい。もし私の周りにそういう人がいたら話しかけてあげたい。また、ちょっとした悪口でも言われ続けるといやな気分になるので、そういうことに注意をし、仲良く協力して生活していきたい。

# 夢

なかるべからず

自分に負けない

真下 まなみ さん



## 高校総体連覇

「明日は頑張ろうね」試合前日は、スパイクを胸に抱き念じる。スタート前は、左腕に巻かれたミサンガに手を置き、心を落ち着かせる。陸上競技の中であって、短距

離のごとく、全力で疾走しなればならない中距離走は過酷だ。シンプルな競技故に、日頃の精神的、肉体的な鍛錬が結果に結びつく。全国高校総体女子800m連覇 真下 まなみ しなやかだが力強い走り、ゴールテープを切った。

## Book

ふかや必読書30



金子みすゞ童謡集 『わたしと小鳥とすずと』 「わたしと小鳥とすずと」を何度か読んでみると、あなたのよさに、そして皆がそれぞれのよさをもってかけがえのない存在であることに気付くはず。小さなものや弱いものの命を見つめたみすゞの優しく力強いメッセージを受け取ってください。

感想 みんなの 本郷小学校6年 内田 日和 さん

私の将来の夢の一つは詩人になることです。きっかけは、金子みすゞさんの「つもった雪」との出会いです。金子みすゞさんは、上の雪、下の雪、中の雪の気持ちを感じ詩に表しています。すべてのものをやさしく大事にしていることと感じ、私もみすゞさんのようなあたたかい心を持ちたいと思いました。代表作「わたしと小鳥とすずと」は、「みんなちがってみんないい」という、この地球に存在するすべてのものに対する祈りだと私は思います。

## Letter

ありがとうの手紙



優秀賞 一般の部

篤広へ

中瀬 川田 竹子 さん

「おばあちゃん、いつも、きれいにしてくれて、ありがとう」の声に振り向くとランドセルを背負った篤広でした。梅雨明けの庭で草取りをしていた私は嬉しくなり、精一杯の声で「お帰り」と迎えました。

あれから六年たったこの頃は、「がんばり過ぎないでね。」といたわってくれますね。元々花作りが好きな私ですが、この一言が励みとなり体が続く限り庭作りをがんばろうと思います。

私にがんばる力を与えてくれた篤広、本当に、ありがとう、感謝感謝です。

祖母

## 優勝と葛藤

走ることが好きだった。川本中学校では、陸上部へ入部。2年生で早くも県大会へ出場した。しかし、多感な時期。3年生の春、部活をサボった。結果は正直で、次の地区予選では、同じ部のライバルに敗退。校内で行われた県大会の壮行会で「自分はなぜ送る側にいるのだろう」と自分に問いかけた。悔しい。自分の甘さに腹が立った。進学は、陸上の名門、深谷商業高校へ入学。1年生の秋に、日本ユース大会で優勝し、大きな自信を得ると、2年生のイン



東アジア大会での練習風景

ターハイでは、スタートからトップで一気にゴール。大きな応援も後押しし、優勝を飾った。このころから、周囲の大きな期待や企業からの誘いなど、見えないプレッシャーに、何のためか走っているかわからなく

## 11111

なった。そんな時、顧問の先生から声をかけられた。「笑顔で走る真下がいい」肩の力が抜けた。一筋の光が見え、800mに懸ける強い思いが芽生えた。そして、インターハイ連覇と高校新記録という目標を自分に課した。

現在、深谷商業高校3年生。インターハイ連覇をしたものの、高校新記録は達成できなかった。今後は、大学進学が予定だ。高校新記録を達成できなかった悔しさをバネに、大学日本一を狙う。自分に負けないよう、日々の練習で自らを高める。そしてこれを超えた時、自信につながる。顧問、家族、部の仲間、応援してくれた人たちに感謝しつつ、この思いを繋げ、一つ一つ駆け上がる。

## 夢七訓

夢なき者は理想なし  
理想なき者は信念なし  
信念なき者は計画なし  
計画なき者は実行なし  
実行なき者は成果なし  
成果なき者は幸福なし  
ゆえに 幸福を求める者は夢なかるべからず※

(本文中の敬称は本人の承諾を得て省略しています)